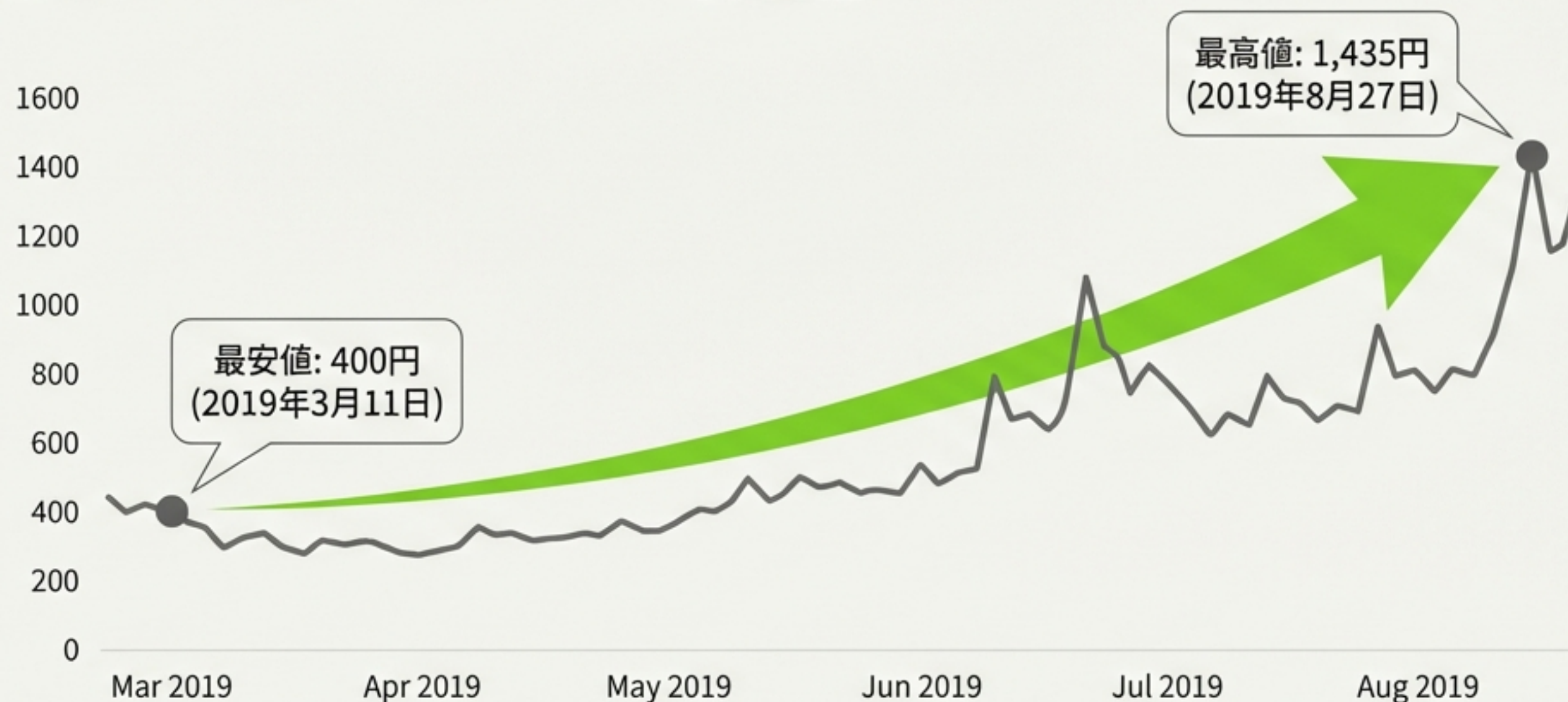


**仕手株は短期間で一気に稼げるほど
甘くない。ただ稼げるのは事実。**

ある銘柄の分析から見てくる、仕手株投資の「神話」と「現実」。

約5ヶ月で資産は3.6倍に。
これが投資家を惹きつける「神話」。



銘柄: enish (3667)

最安値: 400円 (2019年3月11日)

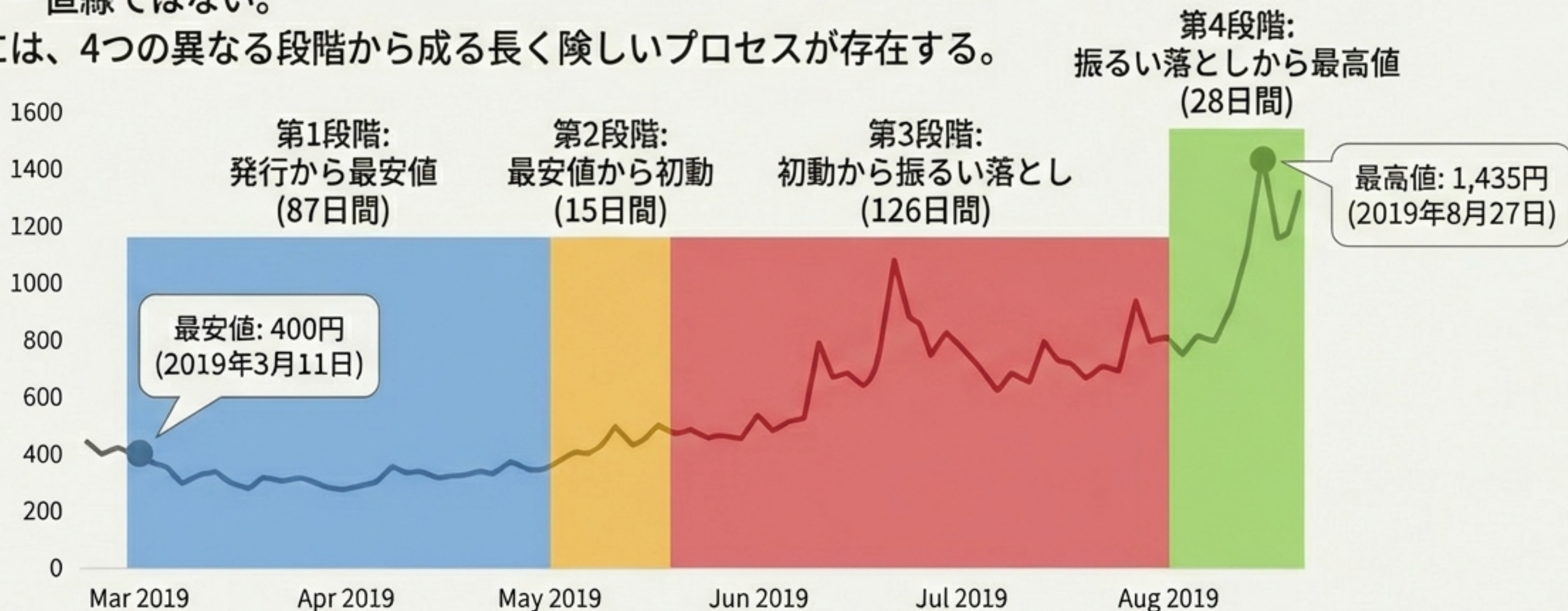
最高値: 1,435円 (2019年8月27日)

この数字だけ見れば、確かに短期間で一気に稼げるように見える。

では、何が甘くないのか？

成功への道は、一直線ではない。

株価急騰の裏には、4つの異なる段階から成る長く険しいプロセスが存在する。



銘柄: enish (3667)

最安値: 400円 (2019年3月11日)

最高値: 1,435円 (2019年8月27日)

この数字だけ見れば、確かに短期間で一気に稼げるように見える。

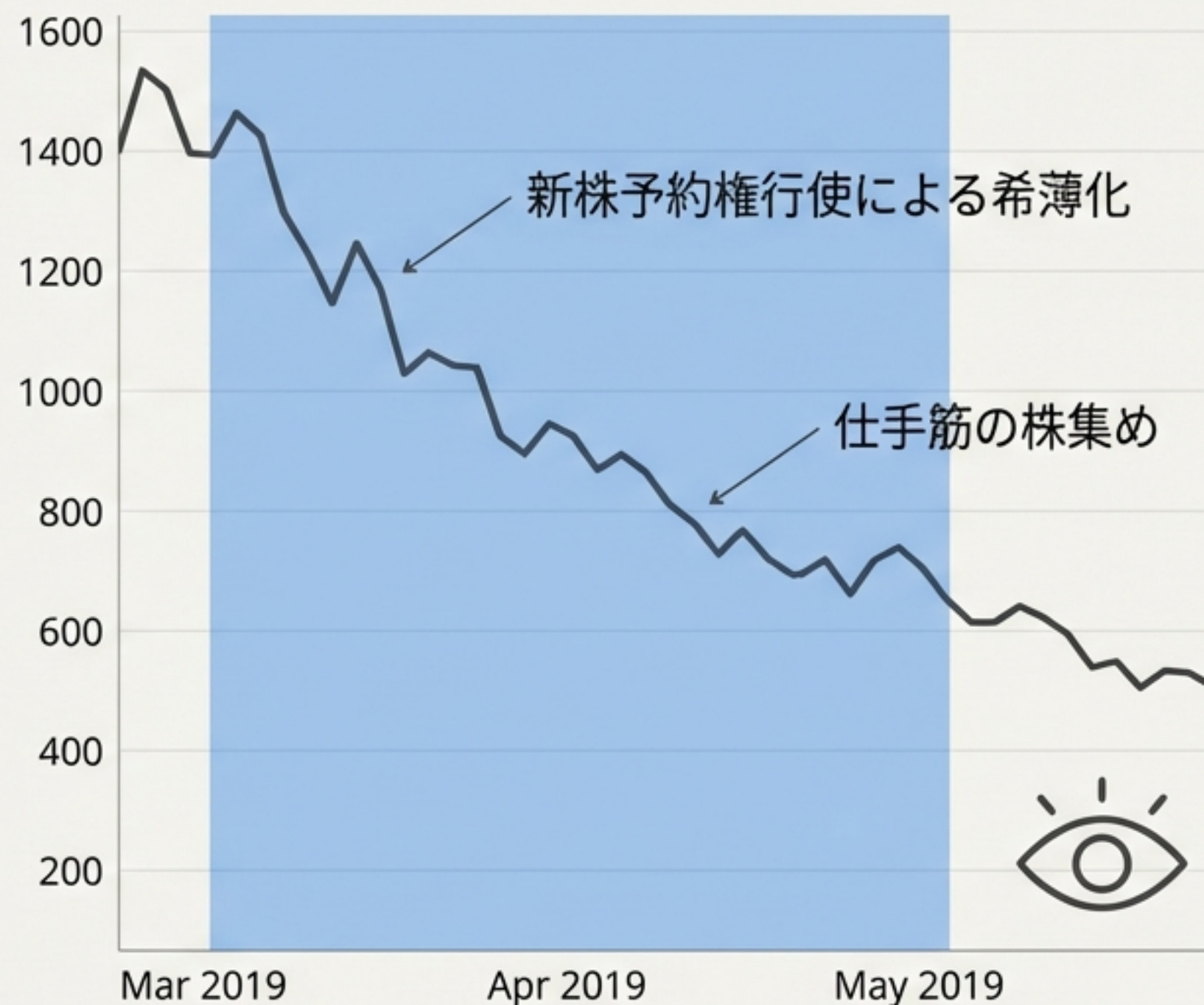
第1段階: 監視と忍耐の日々 (87日間)

Key Insight

株価は下落し続け、底は見えない。仕手筋は静かかに株を集める。この段階での取引は極めてリスクが高い。

Investor's Role

- 行動: 取引しない。ひたすら監視する。
- 課題: 株価希薄化による下落。どこまで下がるか分からない不確実性。
- 心構え: 年単位の監視も覚悟する。いつ初動が起きても対応できるよう準備を怠らない。



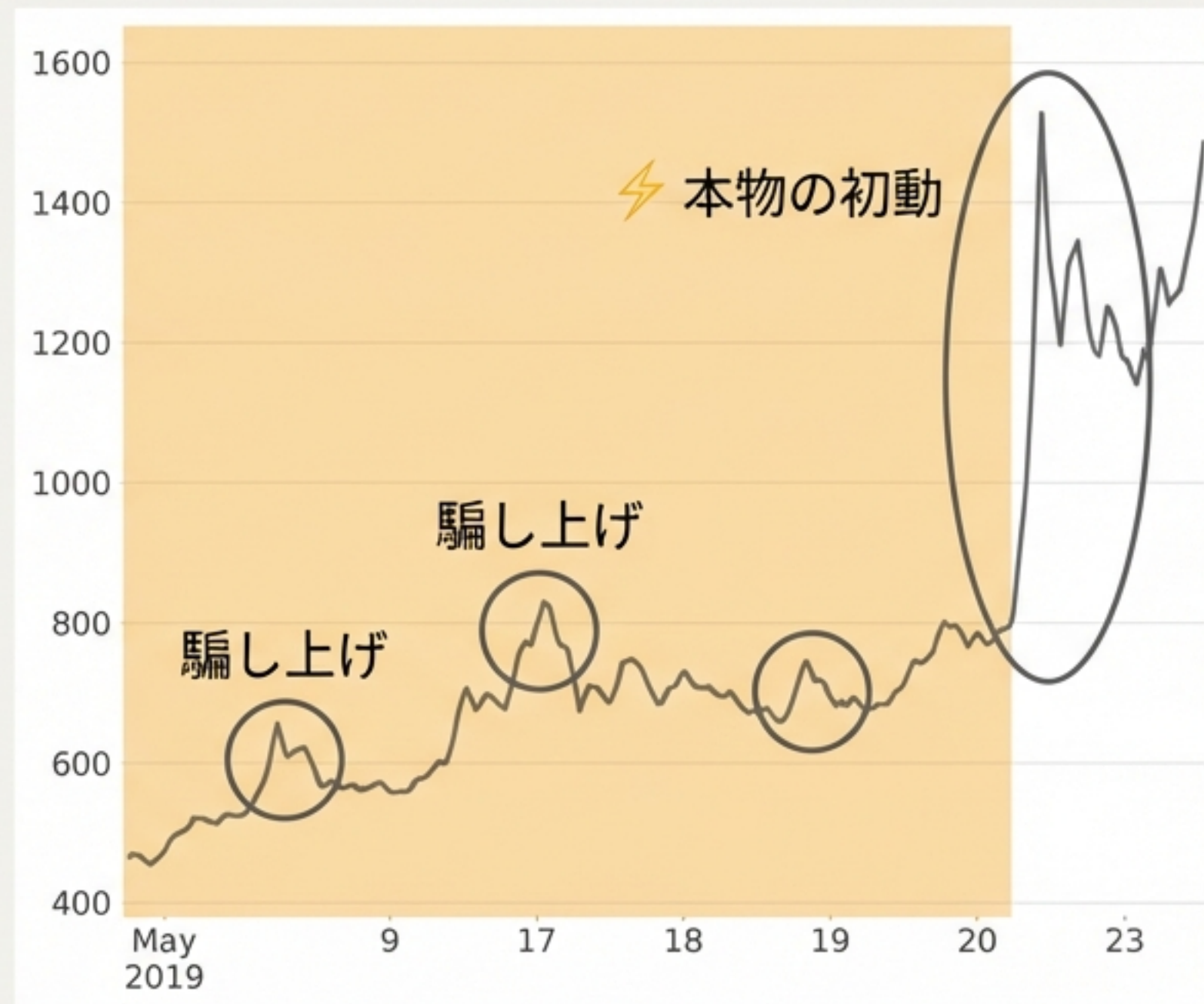
第2段階: たった一度の好機を見極める (15日間)

Key Insight

「初動」は仕手戦開始の唯一の合図。しかし、それまでには幾度となく「騙し上げ」が起こる。

Investor's Role

- 行動: 初動を正確に判断し、エントリーする。
- 課題: 本物の初動と「騙し上げ」の区別。一度きりの瞬間を見逃さない集中力。
- 心構え: 初動のような動きのたびに惑わされない「辛抱強さ」が求められる。



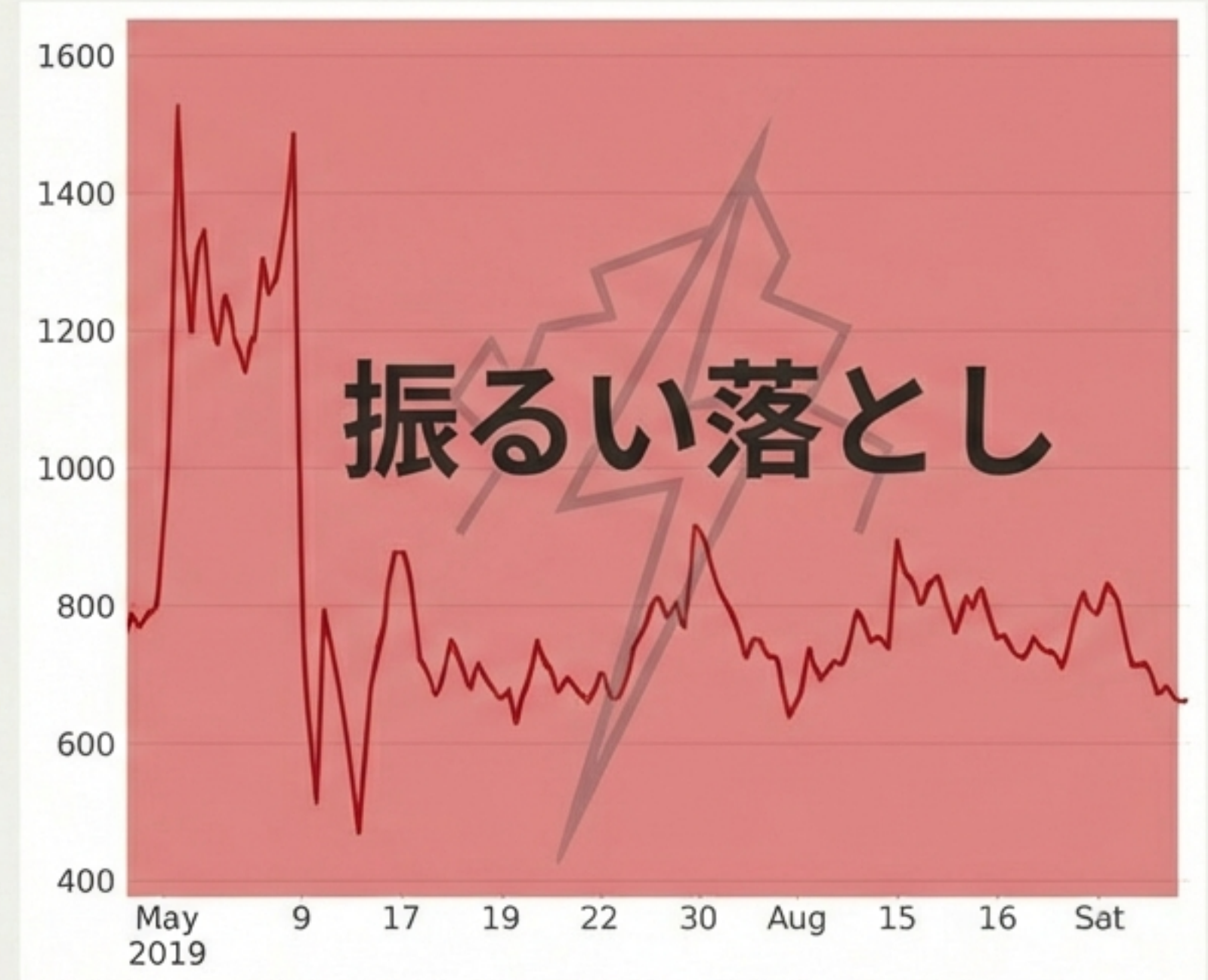
第3段階: 不安との戦い。 「振るい落とし」 (126日間)

Key Insight

この期間が最も長くなる傾向が強い。仕手筋はあらゆる手段を使い、個人投資家を不安にさせ、株を売らせようとする。

Investor's Role

- 行動: 保有し続ける。
- 課題: 初動の始値を割るほどの価格下落。度重なる「このまま保有していて利益が出るのか」という不安。
- 心構え: 「多少の含み損でも、保有し続けられるかどうか勝負」。この試練に耐えた者だけが大きな利益を得る。



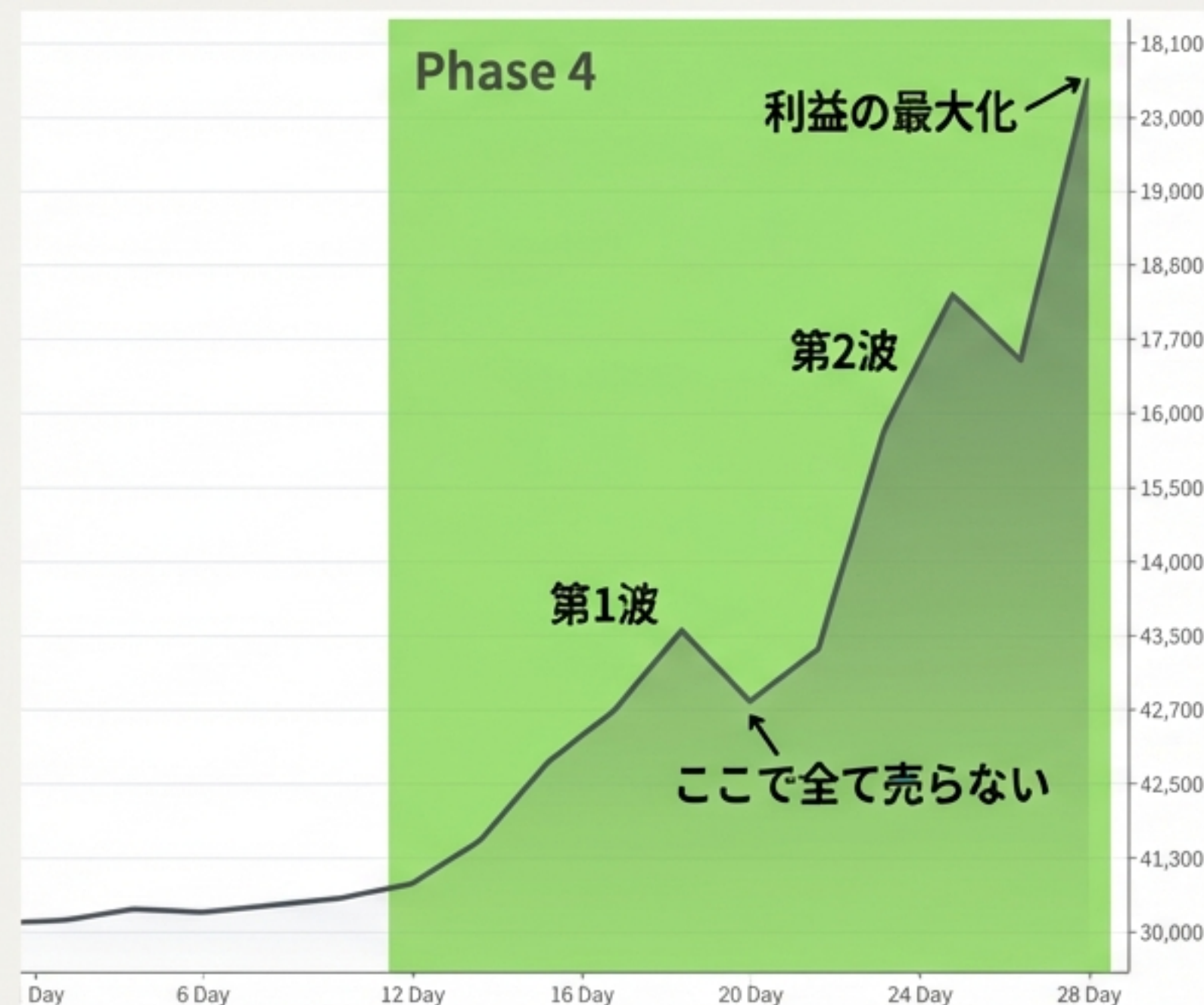
第4段階: 利益確定の誘惑と戦う最終上昇（28日間）

Key Insight

ここまで保有し続けた投資家のみが利益を得る段階。大きな上昇は一度ではなく、複数回訪れることが多い。

Investor's Role

- 行動: 利益を最大化する。
- 課題: 最初の上昇で全てのポジションを決済してしまうこと。
- 心構え: 「最初の上昇ですべて利益確定せず、次の上昇まで保有し続けることで、さらに利益を伸ばすことができる」。



「神話」の裏にある全256日間の「現実」



3.6倍のリターンは、幸運ではなく、4つの異なる心理的・技術的課題を乗り越えた結果である。

結論：焦らず、地道に、取引精度を上げる

どんな仕事でも、簡単にお金は稼げない。
仕手株投資も同じである。

しかし、「投資は、あり得ないほどの利益が見込める」のもまた事実。

最も大切なのは、すぐに簡単に稼げるという幻想を捨て、
投資に真摯に向き合うこと。

地道に少しずつ取引精度を上げて利益を重ねていく。
それが成功への唯一の道である。